

日本生まれの「曲げ木 木製二輪玩具」

木製二輪玩具 Type-01 価格 38,000円(税込)
 木製スタンド 別売り 価格 2,500円(税込)
 材質: プナ合板 重量: 4.2kg 推奨年齢 2~5歳
 グリップ: PVC タイヤ: ゴムチューブ
 ハンドル高さ: 約500mm 幅: 約410mm
 サドル高さ: 約390~440mm(調整可能)
 全長: 850mm 乗員体重: 約30kg 前後

ワークス・ギルド・ジャパン株式会社
 〒011-0936 秋田市将軍野南二丁目3-29
 Phone: 018-880-5145 Fax: 018-845-2581
 E-mail: bentwood@wgj.co.jp URL: http://www.wgj.co.jp



こだわりは細部まで、ハンドル、フロントフォーク、メインフレームや泥除け(マッドガード)など、曲げ木が使われ丁寧に仕上げられ、美しいラインを描き出しています。



大野 英憲
 貴金属の販売やデザインを13年間学び、3年前に独立。秋田の伝統工芸や曲げ木の技術を新しい角度から追求しているプロダクトデザイナー。



環境保護、CO₂削減など、さまざまな取り組みをしているはずの日本。にもかかわらず、毎年CO₂濃度は1987年の観測開始以来下がる気配はなく、去年は見事に過去最高を更新した。そんなめでたくないニュースのかたわら、地方高速道路は週末1000円になりCO₂排出を加速させているのも日本。

ハイブリット自動車や電気自動車所有者、はたまた車を利用しない人々に優遇措置を取るならまだしも、おかげでゴールドウィークに電車の混雑率がさがってもちつともECOではない。環境破壊とETC普及とを政府はどちらを優先するべきなのだろうか。

電化製品にエコポイントをつけるのも良いが、なぜ自転車購入にはエコポイントが付かないのだろう。究極のECOが歩くことならば自転車はその次のECOなはず。

環境先進国の欧州のように、公共交通機関への自転車の乗り入れをスムーズに行えるような整備をするだけでも相当なCO₂の削減になる。そういった目の前には現実的なことを政府にも早く気づいてもらいたい。

そんな世間とはある種逆行し、CO₂などは製作の段階から排出せず、日本の豊富な資源でもある木材を使い、秋田県の伝統工芸でもある「曲げ木」を用い、職人の手作業で児童向けの木製二輪玩具を開発した

地面を蹴って、バランス感覚を養うには最初のうち、ペダルはある意味邪魔なんですよね。さらに木製でそれを作ると、重さも約4キロ程度になり子供でも扱いやすい軽さになります。それを遊び感覚で乗らせることで自然に自転車に慣れていく。

欧州などではこういった木製二輪玩具なる製品は多くありますが、なぜか日本にはそういった文化すら無いんです。まずそれを広めていかないといいませんか。

Q そろそろ文化を広めるために木製二輪玩具を作り、そこに「曲げ木」を加えたのはなぜですか？

大 まず一つは国産品を作りたいかっただということ。自給率も低く、アパレル業界では外資系のメーカーが格安の衣類を売り、ドメステイックブランドと称される日本人に合った日本ブランドが低迷しかけている状況に、違ったアプローチとして質の高い日本製品を作ってみてみたかった。確かにアジアの方で作れば大量に安く作れるかもしれませんが、あくまで自分の目で確認し同時に品質にもこだわりたい。それから、景気低迷の中、職人の技術や伝統工芸を廃らせず世に広める行為は日本人として必要なこと。いつかは海外にも広めて行きたいので、そこでもやはり人が真似出来ないような製品作りと、日本の曲げ木を使った「デ

「ワークス・ギルド・ジャパン株式会社」のデザイナー大野英憲氏に話を伺った。

Q なぜ、秋田県で作ろうと思ったのですか？

大 元々は2007年9月頃に、秋田県の「曲げ木」を使った木製の家具を作るつもりで秋田に伺ったのがきっかけです。

その頃は、当然土地勘も無く知り合いもおらず、そこでまず伺ったのが秋田県庁にある農林水産部の秋田スギ振興課でした。ところが、そこは僕のような個人で少量生産をするというよりは大手企業向けの相談窓口らしく、話を聞いてもらっただけで具体的な進展はありませんでした。

しかし、そのすぐ後に秋田スギ振興課の当時の担当者の方からメールが来て、興味を持ってくれる企業があるかもしれない、ということでした。そこから、あきた県産材利用センターや秋田県家具工業会を周り、秋田の木材事情や製品動向などを伺い、木工製作所巡りをする日々が続きました。そこで、いろんな人と知り合い、秋田県全体で景気が傾いていることも知り、それが僕にとつてのチャンス。追い風に思えるようになったのです。

「ザイン」を表現する必要があったということ。

木を子供の頃から触れさせるということは、非常に大切なことです。環境ホルモンなどの影響でアレルギーを発症する子供たちは跡を絶たず、そんな中で「木」は中和、抗菌する役目にもなっていますから。

材料は「プナ」を使用しています。日本の世界遺産として有名な秋田県と青森県の県境にある「白山山地」にはプナの原生林があり、その森は8000年の歴史がある。とされ、森には神が宿っているという言い伝えがあるほど。ヨーロッパでは高級家具に使われる丈夫な素材で、未永く世代を超えて使うことができる木材です。受け継がれていく木製品としてプナ材で曲げ木を施したデザインをした木製二輪玩具は、特別な価値観があるといえるのではないのでしょうか。

Q パーツのほとんどに「曲げ木」を使っていますが、苦労したことなどはありますか？

大 もちろん、デザインとして仕上げる段階ですべて平面ではなく立体ですから、それをイメージしながらデザインするのは苦労していました。でも、本当に苦労しているのは僕の製品を製作してくれているひとりの職人さんです。木製家具のほとんどは直線で作られているので、通常は機械を使っ

Q 家具を作らずに自転車にも似た木製二輪玩具を作ろうとしたきっかけは？

大 秋田の市内にある木工製作所に曲げ木を施した椅子のデザインを持ち込んだ時、その社長さんに椅子のデザインを凄く褒められたことがあったんです。でも、そのデザインを見た社長さんは「この曲げ木の椅子を作るための『ジグ(木型)』を作るのに、最低100万円以上はかかる」と言われまして、正直ビビりました。

その後もいろいろと椅子のデザインを作りましたが、結局ジグを作る金額のハードルが頭をよぎってしまかなか答えが見えず、そんな時に当時から仲良くさせてもらっている横浜・山下町にあるサイクリングショップの社長に児童向けの木製二輪玩具の話聞いたんです。その時が、「木製二輪玩具」と「曲げ木」が僕の頭の中で一つになった瞬間でした。

Q そもそも、ペダルのない木製二輪玩具には、実際どういった効用があるのでしょうか？

大 欧州のドイツやカナダなどでは初めて子供を自転車に乗せる前に「バランス感覚」を養う目的で利用しています。日本では自転車に補助輪を付けて慣らせる風習がありますが、そうではないんです。

膨ったり、削ったり、磨くことが出来ます。しかし、この木製二輪玩具はほぼ全てのパーツに曲線が使われ、曲げ木という立体パーツで構成されているので、全て手作業で作っていくほか方法がありません。まさしく僕の求めていた究極の「伝統工芸」の世界なのです。作業場にもお邪魔することがありますが、「感謝」の一言に尽きます。

Q 最後に、今後の目標や、次のプランなどがあればお聞かせください。

大 まずは、この製品を一つの新しい日本文化として広めていきたい。それにはさまざまな集合施設などで、試乗会をおこなったり、いろんな人たちに知ってもらい、文字や言葉ではなく、体感を感じ取ってもらいたいと思っています。ご興味のある店舗様などには試乗品をお送りするなどのサービスを実施しており、そこから少しずつ製品に対する意見や評価をいただければと思います。

僕は以前から児童福祉の方でもデザインの仕事をしていますので、障害を持った子供たちのリハビリ用の、もちろん曲げ木を使って自立した木製三輪玩具の試作も進めています。今回の製品をきっかけに、その後は木製車椅子なども作り、木の温かみや職人の技術をたくさんの子供たちに触れさせ、知ってもらいたいと思っています。